

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-259203

(43)Date of publication of application : 03.10.1997

(51)Int.Cl.

G06F 19/00

G06F 17/60

G06F 17/30

(21)Application number : 08-070680

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 26.03.1996

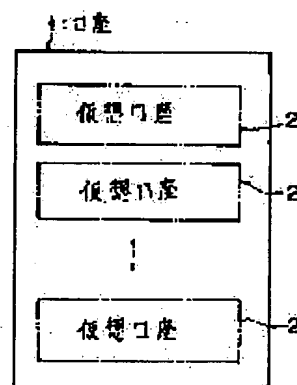
(72)Inventor : NAKASONE YUKIE

(54) ACCOUNT MANAGING METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the usability for a financial institution user and increase the attraction of customers of a financial institution by classifying and managing transaction contents in one account by virtual accounts.

SOLUTION: Plural virtual accounts 2 are opened previously and virtually as to one account 1, and a series of transaction results corresponding to the account 1 are classified by the virtual accounts 2 and managed as transaction results corresponding to the respective virtual accounts 2. Namely, an automatic teller machine (ATM) provides virtual account service for managing accounts by using virtual accounts 2. When this service is utilized, a card and a bankbook are inserted and virtual account processing is performed, so that the processing result is printed on the bankbook. This bankbook is a transaction bankbook for an account as a specific print medium where transaction results are recorded; and a magnetic stripe part (MS part) as a recording medium where various data accompanying transactions are recorded is added, and virtual account information is recorded on the MS part as well as information on the account number, etc.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **09259203 A**

(43) Date of publication of application: **03 . 10 . 97**

(51) Int. Cl

G06F 19/00
G06F 17/60
G06F 17/30

(21) Application number: **08070680**

(71) Applicant: **FUJITSU LTD**

(22) Date of filing: **26 . 03 . 96**

(72) Inventor: **NAKASONE YUKIE**

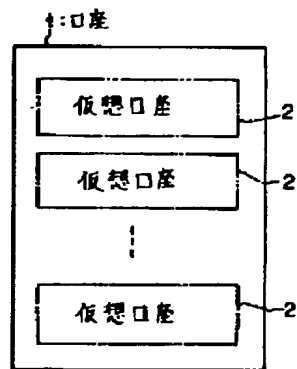
(54) **ACCOUNT MANAGING METHOD**

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the usability for a financial institution user and increase the attraction of customers of a financial institution by classifying and managing transaction contents in one account by virtual accounts.

SOLUTION: Plural virtual accounts 2 are opened previously and virtually as to one account 1, and a series of transaction results corresponding to the account 1 are classified by the virtual accounts 2 and managed as transaction results corresponding to the respective virtual accounts 2. Namely, an automatic teller machine(ATM) provides virtual account service for managing accounts by using virtual accounts 2. When this service is utilized, a card and a bankbook are inserted and virtual account processing is performed, so that the processing result is printed on the bankbook. This bankbook is a transaction bankbook for an account as a specific print medium where transaction results are recorded; and a magnetic stripe part(MS part) as a recording medium where various data accompanying transactions are recorded is added, and virtual account information is recorded on the MS part as well as information on the account number, etc.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-259203

(43) 公開日 平成9年(1997)10月3日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 19/00			G 0 6 F 15/30	Z
17/60			15/21	P
17/30			15/40	3 5 0 B

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 23 頁)

(21) 出願番号 特願平8-70680

(22) 出願日 平成8年(1996)3月26日

(71) 出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号

(72) 発明者 中曾根 雪江

群馬県前橋市問屋町1丁目8番3号 株式会社富士通ターミナルシステムズ内

(74) 代理人 弁理士 真田 有

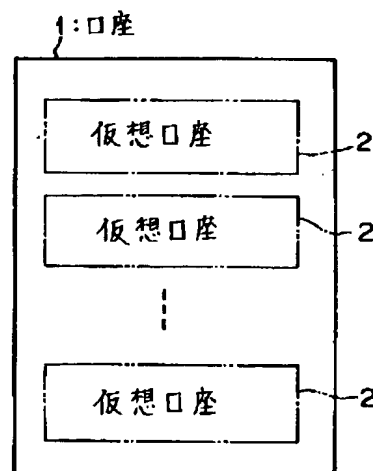
(54) 【発明の名称】 口座管理方法

(57) 【要約】

【課題】 自動取引装置等を使用して各種取引を遂行する際に用いて好適な口座管理方法において、一つの口座で支出項目毎の取引内容を把握しやすくして顧客の利便性を向上させるとともに、金融機関における顧客獲得の拡大を図るようにする。

【解決手段】 ある一つの口座1について複数の仮想口座2を予め仮想的に開設しておき、口座1に対する一連の取引結果を、仮想口座2毎に分類し、各仮想口座2に対する取引結果として管理するようにする。

本発明の原理説明図



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ある一つの口座について複数の仮想口座を予め仮想的に開設しておき、該口座に対する一連の取引結果を、仮想口座毎に分類し、各仮想口座に対する取引結果として管理することを特徴とする、口座管理方法。

【請求項2】 該複数の仮想口座に関する仮想口座情報を該口座のための所定の記録媒体に記録することにより、該複数の仮想口座を開設することを特徴とする、請求項1記載の口座管理方法。

【請求項3】 該所定の記録媒体を用いて該口座に対する取引を行なう場合に、該所定の記録媒体から読み出した前記仮想口座情報に基づいて前記一連の取引結果を該仮想口座毎に分類し、その分類の結果得られた前記の各仮想口座に対する取引結果を、該口座のための所定の印刷媒体に対して該仮想口座毎に印刷出力することを特徴とする、請求項2記載の口座管理方法。

【請求項4】 前記一連の取引結果を該仮想口座毎に分類した結果得られた前記の各仮想口座の残高情報を、前記仮想口座情報として該所定の記録媒体に記録して保存することを特徴とする、請求項3記載の口座管理方法。

【請求項5】 該所定の記録媒体から前記の各仮想口座の残高情報を読み出し、読み出された前記の各仮想口座の残高情報に基づいて、該複数の仮想口座の相互間で残高移動を行なうことを特徴とする、請求項4記載の口座管理方法。

【請求項6】 該所定の印刷媒体が該口座のための取引通帳であり、該所定の記録媒体が該取引通帳に付された磁気ストライプ部であることを特徴とする、請求項3～請求項5のいずれかに記載の口座管理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】（目次）

発明の属する技術分野

従来の技術（図21）

発明が解決しようとする課題（図21）

課題を解決するための手段（図1）

発明の実施の形態（図2～図20）

発明の効果

【0002】

【発明の属する技術分野】本発明は、金融機関において、例えば自動取引装置を使用して支払及び預入等の取引を遂行する際に用いて好適な、口座管理方法に関する。

【0003】

【従来の技術】従来より、金融機関において預金口座が開設されると、一つの口座に付き1冊の通帳が発行される。普通口座の場合、入出金等の取引が行なわれると、取引の結果として、取引の内容及び取引後の口座内の残高（入金取引の場合は前回の残高に入金金額を加算したものが今回の残高となり、支払取引の場合は前回の残高

から支払金額を減算したものが今回の残高となる）が取引順に通帳に印字される。

【0004】このときの通帳印字フォーマットの一例を図21に示す。図21に示すように、入金取引の場合は、取引日時が「年月日」欄に、入金金額が「お預り金額」欄に、入金後の残高が「差引残高」欄にそれぞれ印字される他、例えば「キューヨ」のような取引内容が

「お支払金額」欄に印字される。また、支払取引の場合は、取引日時が「年月日」欄に、支払金額が「お支払金額」欄に、支払後の残高が「差引残高」欄にそれぞれ印字される他、例えば「デンキ」のような取引内容が「お預り金額」欄に印字される。

【0005】ところで、金融機関の預金口座の利用者としては、学生、社会人、年金生活者等の個人及び企業等の組織が考えられるが、特に多いのは、既婚者たるサラリーマン及びその妻ではないかと考えられる。もちろん、サラリーマンには独身者も大勢いるだろうし、既婚者にはサラリーマンでなくとも例えば自営業等の人も大勢いる。利用者の区分の定義を云々するのではなく、金融機関への給料振り込みが一般的になっている現在、その口座から生活費の払い出しを行なうのはごく当然のことであり、預金口座の利用者として家計の管理を行なう者（例えば前述したサラリーマンの妻）が多いのも当然のことといえる。従って、口座の開設は夫名義で行なわれ、その口座に対して給料の振り込みが行なわれた場合に、実際に通帳とカードを管理して現金の引き出しを行なうのは主婦たる妻であることは多い。家計を管理する主婦にとって、家計のやりくりは非常に大切なことであり、よほど余裕があつて一切気にする事なく何でも買える主婦はおそらく一部で、ほとんどの主婦は収支のバランスを考えながら家計を管理している。

【0006】一般に、家計を上手に管理する基本とは、予めその支出項目に対して予算枠を定めておき、その範囲内で支出を行なうようにすることである。つまり、過去の実績から、食費、衛生費、電気代、ガス代、水道代等の項目について（季節等によって変わることもある）予算枠を設け、その範囲内でまかなえるよう計画的に支出を行なうのである。これはただ金銭的な面からの管理の意味もあるし、生活の仕方そのものについても工夫を行なうという意味もある（水を無駄に使わないとか、外食を頻繁にしないとか等）。

【0007】なお、各予算枠における余剰金は、生活費として使用しなくてもよいので、例えば、貯蓄にまわしたり、趣味のものを買ったり等、自由に使用することができる。また、ある支出項目において予算枠を超えた支出があつた場合には、他の項目の余剰金を使用することにより、全体の収支のバランスをとることができる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】上述のような家計の管理手法は一般的であるが、一つの口座内において複数の

支出項目に対する入出金等の取引が行なわれ、通帳には例えば図 21 に示すような取引内容の印字が行なわれることになるため、各支出項目の残高の管理が煩雑になるという課題がある。

【0009】そこで、複数の口座を開設し、例えば、公共料金の引き落とし専用、ローンの引き落とし専用、生活費の引き落とし専用等の支出項目に分けて口座を利用する手法もある。この場合、給料の振込があると、主婦等の利用者が各口座に所定額（前述した予算枠に対応する金額）を振り込み、各々の口座毎に支払取引を行なうことにより、各口座の通帳には各支出項目についての取引結果のみが印字され、各支出項目の残高の管理を容易に行なうことができる。また、このように複数の口座を利用する場合においては、支払取引後の残高をそのままそれぞれの口座に預けておくことにより、わずかではあっても貯蓄とすることもできる。

【0010】しかしながら、上述のように複数の口座を開設して家計の管理を行なう場合、利用者は、各口座の通帳毎に記帳を行ったり、給料の振り込み口座から他の各口座へ所定金額だけ移動させる手続を一行なわなければならない、そのための操作が極めて煩雑である。また、ローンで買物をした場合、その引き落としは、通常、1 回払いであれば、翌月あるいは翌々月になる。他にボーナス払いやリボルビング払い等の支払法もある。ローンでの買物の支払いを、例えば前回のボーナスの残りから払う計画をたてた場合であっても、給料とボーナスの振り込みが同一口座であると、各々の残高がいくらになっているかわからない。この口座における前回のボーナスの残高を知るためには、記帳を行なって通帳に印字された取引内容からボーナスの残高を算出しなければならず、非常に面倒であるという課題もある。

【0011】なお、通帳等への記帳の際、取引結果を見やすくするため、所定期間内の取引内容を予め指定された項目毎に分類して、それぞれの取引内容毎の小計結果を通帳に印字する技術が特開平 7-013981 号公報に開示されている。しかしながら、この技術は、図 21 に示すような従来の印字フォーマットに所定期間内の小計結果のみを追加して印字するものであるため、その所定期間内の預金の出入（取引内容）についての小計データの把握しかできない。

【0012】本発明は、このような課題に鑑み創案されたもので、一つの口座で支出項目毎の取引内容を把握しやすくするとともに、各支出項目の将来的支出を計画的に管理できるようにして、金融機関の利用者にとっての利便性を向上させ、ひいては金融機関において顧客獲得の拡大に寄与しうる口座管理方法を提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】図 1 は本発明の原理説明図である。図 1 に示す本発明の口座管理方法は、ある一

つの口座 1 について複数の仮想口座 2 を予め仮想的に開設しておき、口座 1 に対する一連の取引結果を、仮想口座 2 毎に分類し、各仮想口座 2 に対する取引結果として管理することを特徴としている（請求項 1）。

【0014】このとき、複数の仮想口座 2 に関する仮想口座情報を口座 1 のための所定の記録媒体に記録することにより、複数の仮想口座 2 を開設してもよい（請求項 2）。また、所定の記録媒体を用いて口座 1 に対する取引を行なう場合に、所定の記録媒体から読み出した前記仮想口座情報に基づいて前記一連の取引結果を仮想口座 2 毎に分類し、その分類の結果得られた各仮想口座 2 に対する取引結果を、口座 1 のための所定の印刷媒体に対して仮想口座 2 毎に印刷出力してもよい（請求項 3）。

【0015】さらに、前記一連の取引結果を仮想口座 2 毎に分類した結果得られた各仮想口座 2 の残高情報を、前記仮想口座情報として所定の記録媒体に記録して保存してもよい（請求項 4）。また、所定の記録媒体から各仮想口座 2 の残高情報を読み出し、読み出された各仮想口座 2 の残高情報に基づいて、複数の仮想口座 2 の相互間で残高移動を行なうこともできる（請求項 5）。

【0016】そして、前述した所定の印刷媒体として口座 1 のための取引通帳を用いるとともに、所定の記録媒体として取引通帳に付された磁気ストライプ部を用いてもよい（請求項 6）。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

（a）自動取引装置の説明

図 3 は本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の構成を示すブロック図である。

【0018】この図 3 に示す自動取引装置（ATM: Automatic Teller Machine）11 は、ホスト 10 の下位に接続され、顧客が直接操作することにより支払及び預入等の取引を行なうものであり、カード 27 を挿入して取引を行なうとその取引結果が明細書 29 に印字され、カード 27 及び通帳 28 を挿入して取引を行なうとその取引結果が通帳 28 に印字されるようになっている。

【0019】また、この ATM 11 は、後述する仮想口座を用いて口座の管理を行なう仮想口座サービスを行なうものであり、この仮想口座サービスを受ける際には、カード 27 及び通帳 28 を挿入して後述する仮想口座処理を行なうとその処理結果が通帳 28 に印字されるようになっている。ここで、通帳 28 は、取引結果が記録される所定の印刷媒体としての口座のための取引通帳であり、この通帳 28 には取引に伴う各種データが記録される所定の記録媒体としての磁気ストライプ部（MS 部）28A が付されている。この MS 部 28A には、従来より口座番号等の情報が記録されているが、本実施形態では後述する仮想口座情報も記録される。この MS 部 28A を用いることにより、本実施形態にかかる ATM 11

においても、従来から金融機関において用いられていた通帳と同様の通帳28を用いながら、本実施形態にかかる口座管理方法（仮想口座サービス）を実現することができる。

【0020】そして、このATM11は、制御部12、表示部20、操作パネル21、カードリーダー/ライタ22、MS部リーダー/ライタ23、通帳印字部24、取引明細書印字部25及び現金取扱装置26をそなえて構成されている。ここで、表示部20は、例えば図7～図11に示すような操作案内画面及び指定画面等の表示画面

を表示するものである。

【0021】操作パネル21は、支払及び預入等の取引を行なう際や仮想口座サービスを受ける際に顧客が入力を行なうためのものであり、例えば、表示部20における表示画面上に形成されたタッチキーやATM11に設けられた操作ボタンによって構成されている。カードリーダー/ライタ22は、挿入されたカード27に記録されているデータの読み取り及び書き込みを行なうものであり、MS部リーダー/ライタ23は、挿入された通帳28のMS部28Aに記録されているデータの読み取り及び

書き込みを行なうものである。

【0022】通帳印字部24は、通帳28のMS部28Aから読み取られたデータ（又はカード27から読み取られたデータ）に基づいて所定の出力仕様に変換されたホスト10からのデータを、通帳28に印字するものである。取引明細書印字部25は、支払及び預入等の取引を行なった後に、その取引結果を印字した明細書29を発行するものである。

【0023】現金取扱装置26は、支払及び預入等の取引を行なう際に、実際に現金30（紙幣及び貨幣）を取り扱うものである。そして、制御部12は、ATM11の動作を統括的に管理・制御するものであり、この制御部12は、インタフェース部13、CPU14、表示制御部15、I/O部16、メモリ17及び印刷出力部18をそなえて構成されており、これらはそれぞれバス19を介して接続されている。

【0024】ここで、インタフェース部13は、ホスト10とのインタフェース制御を行なうものである。CPU14は、バス19を介してインタフェース部13、表示制御部15、I/O部16、メモリ17及び印刷出力部18の制御を行なうことにより、制御部12におけるATM11の動作の制御を実際に行なうものである。なお、本実施形態のCPU14は、本発明の特徴的な機能である仮想口座サービスを実現すべく、図2に示すように取引処理部31及び仮想処理部32をそなえて構成されているが、詳細については後述する。

【0025】表示制御部15は、表示部20の表示状態を制御するものであり、I/O部16は、操作パネル21、カードリーダー/ライタ22及びMS部リーダー/ライタ23からの入力情報（読取情報）を受け、バス19を

介してCPU14へ送る一方、カード27や通帳28のMS部28Aに書き込むべき情報を、CPU14からバス19を介して受け、それぞれカードリーダー/ライタ22およびMS部リーダー/ライタ23へ送るものである。

【0026】メモリ17は、CPU14用のワーキングメモリとして機能するもので、インタフェース部13を介して入力されたホスト10からのデータを格納するとともに、カード27や通帳28のMS部28Aから読み取られたデータ及び操作パネル21からの入力データを、I/O部16から受けて一時的に格納するほか、CPU14により算出されたデータ（通帳28や明細書29に対する印字データ等）を一時的に格納するものである。

【0027】印刷出力部18は、通帳印字部24及び取引明細書印字部25の印字動作を制御するものであり、CPU14によってメモリ17に格納されたデータの印字を行なう必要があると判断された場合に、通帳28または明細書29への印字データを通帳印字部24または取引明細書印字部25へ出力するものである。次に、前述したCPU14について、図2を参照しながらより詳細に説明する。図2はCPU14の機能ブロック図であり、この図2に示すように、CPU14は、取引処理部31及び仮想処理部32をそなえて構成されている。ここで、取引処理部31は、一般的な支払及び預入等の各種の取引処理を行なうものであり、仮想処理部32は、後述する仮想口座に関する処理を行なうものである。

【0028】本実施形態でいう仮想口座とは、ある一つの口座について予め開設された仮想的な口座のことであり、一つの口座について複数の仮想口座を開設できるようになっている（図1参照）。このような仮想口座を開設した場合、口座に対する一連の取引結果は、仮想口座毎に分類され、各仮想口座に対する取引結果として管理されるようになっている。

【0029】例えば普通預金のような支払及び預入等を任意に行なうことのできる口座においては、従来の口座管理方法では、取引を行なう毎に残高の算出を行なっていたため、残高として一種類の金額のみを管理している（普通預金と定期預金とを1つの通帳で行なうことのできる総合口座等は、普通預金の分についてのみ考えるものとする）。これに対し、本実施形態にかかる口座管理方法では、一つの口座の中に仮想的に複数の仮想口座を開設して、仮想口座毎に残高の算出を行なうことにより、残高として複数の金額を管理するようになっている。

【0030】この仮想口座は、所定の項目における取引内容及び残高を内部的（仮想的）に管理すべく、顧客が便宜上利用するものであるため、金融機関において実在する口座（即ち図3に示すホスト10の記憶装置等に記録される口座）は、従来と同様に一つのみである。従って、この口座に対する支払及び預入等の取引も、外見上

は従来の口座に対する処理と全く同様に行なわれている。

【0031】このような仮想口座に関する処理を行なう仮想処理部32は、仮想口座開設機能部33、仮想口座取引結果分類機能部34及び仮想口座残高移動機能部35をそなえて構成されている。仮想口座開設機能部33は、表示部20又は操作パネル21からの入力により仮想口座を開設するための処理を実行する機能を有するとともに、開設された複数の仮想口座に関する仮想口座情報を、口座のための所定の記録媒体としての通帳28のMS部28Aに記録するようにI/O部16を介してMS部リーダー/ライタ23へ指示を送るものである(図6のステップB5~B8参照)。

【0032】仮想口座取引結果分類機能部34は、口座に対する取引結果を仮想口座に対する取引結果に分類して印字する場合に機能するものであり、通帳28のMS部28Aを用いて口座に対する取引を行なう場合に、MS部28Aから読み出した仮想口座情報に基づいて、一連の取引結果を仮想口座毎に分類し、その分類の結果得られた各仮想口座に対する取引結果を、例えば図14~図20に示すごとく、口座のための所定の印刷媒体としての通帳28に仮想口座毎に印刷出力するように印刷出力部18を介して通帳印字部24へ指示を送るものである(図5のステップA14~A16参照)。

【0033】また、この仮想口座取引結果分類機能部34は、一連の取引結果を仮想口座毎に分類した結果得られた各仮想口座の残高情報を、仮想口座情報としてMS部28Aに記録するようにI/O部16を介してMS部リーダー/ライタ23へ指示を送る機能も有している(図5のステップA14、A15参照)。さらに、仮想口座残高移動機能部35は、ある仮想口座における残高を他の仮想口座に移動させる場合に機能するものであり、MS部28Aに記録された各仮想口座の残高情報を読み出し、読み出された各仮想口座の残高情報に基づいて、複数の仮想口座の相互間で残高移動を行なうものである(図6のステップB10~B13参照)。

【0034】上述の構成により、図3に示すATM11においては、カード27のみを用いて、又は、カード27及び通帳28を用いて、表示部20における表示画面の指示に従って支払や預入等の取引が行なわれると、CPU14における取引処理部31の機能によって処理が行なわれ、その取引結果はホスト10へ送出されるとともに、カード27のみを挿入して取引が行なわれた場合はその取引結果が明細書29に印字され、カード27及び通帳28を挿入して取引が行なわれた場合はその取引結果が通帳28に印字される。

【0035】このときの動作を図4、図5に示すフローチャート(ステップA1~A19)に従って説明する。図3に示すATM11の表示部20には、例えば図7の(1)に示すような初期画面が表示されており、支払及

び預入等の取引を行なう際には、表示画面上のタッチキーである取引キーとしての「支払」、「預入」、「残照(残高照会)」、「記帳」、「サービス」の内の所望の取引キーを押下する(ステップA1)。

【0036】そして、カード27をATM11に挿入すると(ステップA2)、カードリーダー/ライタ22によってカード27の読み取りが行なわれ(ステップA3)、通帳28をATM11に挿入すると(ステップA4)、MS部リーダー/ライタ23によって通帳28のMS部(磁気ストライプ部)28Aの読み取りが行なわれる(ステップA5)。なお、カード27のみを挿入して取引を行なった場合には、ステップA4、A5の処理は省略される。

【0037】次いで、暗証番号の入力(ステップA6)、取引金額の入力(ステップA7)、取引金額の確認(ステップA8)を順に行なうと、センタ(ホスト10)との通信が行なわれ(ステップA9)、カード27を挿入して取引が行なわれた場合はレシート(明細書29)への印字が行なわれ(ステップA10)、カード27及び通帳28を挿入して取引が行なわれた場合は通帳28への印字が行なわれる(ステップA11)。また、このとき上記取引において現金30が関与する場合(支払又は預入)は、同時に現金計数も行なわれる(ステップA12)。なお、通帳28への記帳のみを行なう場合には、ステップA2、A3、A6~A8の処理は省略され、ステップA11による印字処理が行なわれる。

【0038】以上のような通常の取引処理を終了した後、通帳28のMS部28Aの読取結果に基づいて仮想口座の有無を判断し(ステップA13)、仮想口座が開設されている場合(ステップA13でYes判定の場合)、CPU14における仮想処理部32の仮想口座取引結果分類機能部34により、後で詳述するような仮想口座処理(取引結果の分類)を行ない(ステップA14)、仮想口座処理が終了すると通帳28のMS部28Aにおける各仮想口座の残高を更新するとともに(ステップA15)、仮想口座処理の結果(仮想口座毎の取引結果)を通帳28に印字する(ステップA16)。

【0039】ステップA16による処理を終えた後、もしくは、仮想口座が無いと判断された場合(ステップA13でNo判定の場合)、カード27及びレシート(明細書29)の放出(ステップA17)、通帳28の放出(ステップA18)及び現金30の放出(支払取引の場合:ステップA19)が行なわれる。

(b) 本実施形態の口座管理方法

このようなATM11において適用される本発明の一実施形態にかかる口座管理方法としての仮想口座処理を以下に説明する。

【0040】(b1) 仮想口座の開設手順

本実施形態においては、給料振り込み用の普通口座に、生活費の払い出し用の仮想口座及び公共料金やクレジッ

ローンの引き落とし用の仮想口座を開設する場合について説明する。まず、従来の口座での取引項目の一例を表1にあげる。

*【0041】
【表1】

*

預け入れ	毎月の給料 年2回のボーナス
払い出し	生活費等の引き出し 毎月の電気代、ガス代、水道代、NHK料金の引き落とし クレジットローンの引き落とし (カードショッピングした場合)

このような従来の口座において、取引項目毎に仮想口座(以下では、仮想口座の呼称として便利口座を用いることがある)を設定すると例えば表2のようになる。

※【0042】
【表2】

※

	預け入れ	払い出し
便利口座1	毎月の給料	生活費等の引き出し
便利口座2	年2回のボーナス	クレジットローンの引き落とし
便利口座3	毎月便利口座1から2万円	電気代の引き落とし
便利口座4	毎月便利口座1から2万円	ガス代の引き落とし
便利口座5	毎月便利口座1から5千円	水道代の引き落とし
便利口座6	毎月便利口座1から2千円	NHK料金の引き落とし
便利口座7	指定なし	指定なし

なお、表2において便利口座7は、各口座での余剰金を任意に移動するための貯蓄用(へそくり用)の仮想口座である。本実施形態の仮想口座の開設は、図3に示す自動取引装置(ATM)11から必要事項を入力することにより行なうものとし、このときの動作について図6に示すフローチャート(ステップB1～B9)に従って説明する。

【0043】ATM11の表示部20には、例えば図7の(1)に示すような初期画面が表示されており、仮想口座を開設する際には、表示画面上のタッチキーである取引キーとして「サービス」を押下すると(ステップB1)、例えば図7の(2)に示すような便利口座サービスの説明画面及び図7の(3)に示すような通帳挿入案内画面が表示される(ステップB2)。

【0044】ここで、通帳28をATM11に挿入してから(ステップB3)、利用者は、新規手続きを行なうか否かを判断し(ステップB4)、ここでは新規手続きにより仮想口座の開設を行なうためステップB4におい

てYesのルートへ進み、取引キーとして「新規手続」を押下する(ステップB5)。その後は、後述するような所定項目の入力を行ない(ステップB6)、所定項目の入力が終了したか否かを判断し(ステップB7)、終了していない場合はステップB6の所定項目の入力を引き続いて行ない、終了した場合は通帳28のMS部(磁気ストライプ部)28Aが更新され(ステップB8)、通帳28が放出される(ステップB9)。

【0045】仮想口座の開設における実際の操作手順(ステップB6による所定項目の入力手順)を、図7～図9を参照しながら更に説明する。ここで、図7～図9に示す表示画面には、「支払」、「預入」等のタッチキーが設けられており、これらのキーのうちのいずれかを押下することにより、所望の取引を行なうようになっていいる。なお、タッチキーの内の「取消」を押下すると、初期画面に戻るものとする。

【0046】また、カナ及び数字の入力は、図7～図9では図示しない表示画面に設けられたタッチキーで構成

40

50

されるカナキー及びテンキーを用いて行なわれるか、別に設けられたキーボードのカナキー及びテンキーを用いて行なわれるようになっている。ここで、タッチキーの「サービス」を押下すると、表示画面は図7の(2)に示すように、このサービスが便利口座サービスであることを確認するためのものとなり、「確認」を押下すると、表示画面は図7の(3)に示すような通帳挿入案内画面となるため、利用者は、通帳を挿入するとともに、仮想口座を開設する「新規手続」又は後述する残高移動を行なう「移動手続」の内のいずれか一方を押下する。ここでは、仮想口座を開設すべく、「新規手続」が押下されたものとする。

【0047】「新規手続」を押下すると、表示画面は図7の(4)に示すような便利口座の新規手続画面となる。この図7の(4)では、「口座1」が網かけ又は反転文字等で強調表示されており、この強調表示を矢印キー(「↓」、「↑」、「→」、「←」)を押下して各口座間で移動させることにより開設及び設定を行なう便利口座を選択し(ここでは便利口座1の設定を行なうため強調表示の移動は行なわない)、選択が終了した後「確認」を押下する。

【0048】これにより、表示画面は図7の(5)に示すような口座名を入力する画面となり、便利口座1の口座名として「キュウリョウ」を入力し、「確認」を押下すると、図7の(6)に示すような預け入れの項目を入力する画面となり、便利口座1に給与が振り込まれるように設定するため「キュウヨ」を入力し、「確認」を押下する。

【0049】次いで、表示画面は図8の(7)に示すような払い出しの項目を入力する画面となり、「CDネット(このCDネットとは、キャッシングディスペンサにおけるネットワークを意味する)」を入力し、「確認」を押下することにより、便利口座1の設定が行なわれ、表示画面は図8の(8)に示すようになる。これにより、顧客がCDネットで払い出しを行なうと、便利口座1から引き落としが行なわれることになる。

【0050】また、便利口座2においても、口座名として「ボーナス」、便利口座2にボーナスが振り込まれるように設定するための預け入れの項目として「ボーナス」、便利口座2からクレジットローンが引き落とされるように設定するための払い出しの項目として「〇〇クレジット」をそれぞれ入力することにより、便利口座1での場合と同様の手順で便利口座2の設定が行なわれ、表示画面は図8の(9)に示すようになる。

【0051】さらに、便利口座3の設定を行なうため、図8の(9)に示すような表示画面において、「口座3」が強調表示されている状態で「確認」を押下すると、表示画面は図8の(10)に示すような口座名を入力する画面となり、便利口座3の口座名として「デンキ」を入力し、「確認」を押下すると、図8の(11)

に示すような預け入れの項目を入力する画面となり、便利口座1の預入項目1の「キュウヨ」に預け入れが発生した場合に、便利口座3にこの預入項目1から電気代の予算として2万円が移動することにより、預け入れが行なわれるように設定するため「1-1-20000」を入力し、「確認」を押下する。

【0052】次いで、表示画面は図8の(12)に示すような払い出しの項目を入力する画面となり、便利口座3から電気代が引き落とされるように設定するため「デンキ」を入力し、「確認」を押下する。また、便利口座4の設定においては、図9の(13)に示すような表示画面において、「口座4」が強調表示されている状態で「確認」を押下した後、口座名として「ガス」、便利口座1の預入項目1の「キュウヨ」に預け入れが発生した場合に、便利口座4にこの預入項目1からガス代の予算として2万円が移動することにより、預け入れが行なわれるように設定するための預け入れの項目として「1-1-20000」、便利口座4からガス代が引き落とされるように設定するための払い出しの項目として「ガス」をそれぞれ入力することにより、便利口座3での場合と同様の手順で便利口座4の設定が行なわれる。

【0053】以下、表示画面は図示しないが、便利口座5においても、口座名として「スイドウ」、便利口座1の預入項目1の「キュウヨ」に預け入れが発生した場合に、便利口座5にこの預入項目1から水道代の予算として5千円が移動することにより、預入が行なわれるように設定するための預け入れの項目として「1-1-5000」、便利口座5から水道代が引き落とされるように設定するための払い出しの項目として「スイドウ」をそれぞれ入力することにより、便利口座3での場合と同様の手順で便利口座5の設定が行なわれる。

【0054】また、便利口座6においても、口座名として「NHK」、便利口座1の預入項目1の「キュウヨ」に預け入れが発生した場合に、便利口座6にこの預入項目1からNHK料金の予算として2千円が移動することにより、預入が行なわれるように設定するための預け入れの項目として「1-1-2000」、便利口座6からNHK料金が引き落とされるように設定するための払い出しの項目として「NHK」をそれぞれ入力することにより、便利口座3での場合と同様の手順で便利口座6の設定が行なわれる。

【0055】なお、便利口座7においては、口座名として「ヘソクリ」、預け入れの項目及び払い出しの項目を空欄のまま「確認」を押下することにより、便利口座1～6での場合と同様の手順で便利口座7の設定が行なわれる。このように、便利口座1～7の設定が行なった後に「終了」を押下すると表示画面は図9の(14)に示すようになり、このときの手続きとして便利口座1～7の開設が行なわれ、手続きが終了すると表示画面は図9の(15)に示すようになり、通帳28を抜き取ると表

示画面は図9の(16)に示すような初期画面に戻る。

【0056】このように自動取引装置11の表示画面に従って入力を行なうことにより、簡単に仮想口座を開設することができる。なお、仮想口座とは、入出金のある特定の項目について、その出入りと残高とを内部的に管理することを目的としているので、本実施形態のごとく従来の口座における取引項目を全て仮想口座に振り分け*

*でもよいし、一部の項目についてのみ仮想口座を設定して従来の口座から各仮想口座へ振り込みを行なうように(即ち口座内部で預金移動するように)してもよい。

【0057】この場合は、例えば表3のように仮想口座を設定する。

【0058】

【表3】

	預け入れ	払い出し
仮想口座1	毎月従来の口座から2万円	電気代の引き落とし
仮想口座2	毎月従来の口座から2万円	ガス代の引き落とし
仮想口座3	毎月従来の口座から5千円	水道代の引き落とし
仮想口座4	毎月従来の口座から2千円	NHK料金の引き落とし

また、本実施形態においては、顧客が必要事項を直接自動取引装置11等から入力することにより仮想口座を開設する場合について説明したが、これに限定されず、顧客が金融機関における所定の手続き用紙に必要事項を記載し、オペレータがこの手続き用紙に記載された必要事項を端末装置等から入力することにより開設してもよい。

【0059】(b2) 仮想口座の管理方法

本実施形態にかかる口座管理方法においては、上述のようにして開設した仮想口座に関する情報(仮想口座情報)を、従来の口座と同様に、ホスト10の記憶装置等に記録することにより、ホスト10が顧客情報の一部として管理することもできるが、ホスト10に対する負荷を考慮して、各顧客が使用する通帳28のMS部(磁気ストライプ部)28Aに記録することにより、各顧客が直接管理することが望ましい。

【0060】本実施形態では、仮想口座情報は、通帳28のMS部28Aに例えば図12に示すようなフォーマットで記録される。図12に示すように、仮想口座記録欄は仮想口座毎に設けられており、各仮想口座記録欄には、仮想口座の番号が記録される「仮想口座No.」欄、仮想口座名称が記録される「仮想口座名称」欄、仮想口座の残高が記録される「仮想口座残高」欄、預け入れ項目が記録される「預け入れ項目」欄及び引き落とし項目が記録される「引き落とし項目」欄が設けられている。

【0061】なお、各欄の間にはセパレータとして機能するスペースが設けられている。また、「預け入れ項目」欄及び「引き落とし項目」欄では、項目が複数存在する場合には、セパレータが検知するまで10文字毎に

区切られるようになっている。例えば図12の最上段に示す仮想口座記録欄は、便利口座1(キュウリョウ)に関する情報を記録する欄であり、「仮想口座No.」欄には「1」が、「仮想口座名称」欄には「キュウリョウ」が、「仮想口座残高」欄には便利口座1の残高情報が(図12では××××××と示されている)、「預け入れ項目」欄には「キュウヨ」が、「引き落とし項目」欄には「CDネット」がそれぞれ記録されている。

【0062】なお、便利口座7(ヘソクリ)のように、預け入れ項目及び引き落とし項目の指定がない場合は、図12の最下段に示す便利口座7(ヘソクリ)の仮想口座記録欄ではセパレータのみが存在する。また、仮想口座の管理は、CPU14における仮想処理部32の仮想口座取引結果分類機能部34の機能によって行なわれ、具体的には、図5のATM11の動作を示すフローチャートのステップA14における仮想口座処理、ステップA15における通帳28のMS部28Aの更新及びステップA16における仮想口座処理結果の通帳28への印字によって行なわれる。

【0063】即ち、仮想口座の管理においては、ATM11のCPU14の仮想口座取引結果分類機能部34(図2に示す)が、ホスト10から送出された従来の口座のデータ(記帳データ)を受信すると、通帳28のMS部28Aから読み取られたデータと比較して、仮想口座において設定された取引項目(キュウヨ、デンキ等)と同一の記帳項目がないか判断する。

【0064】ここで、同一の記帳項目がある場合は対応した仮想口座の残高に対して、預け入れであれば加算を行ない、又、引き出し(あるいは引き落とし)であれば減算を行なうことによって、仮想口座毎の取引結果の小

計を行なう。最後に、これらの小計結果は、仮想口座取引結果の出力仕様に従って、仮想口座毎に所定の媒体（従来の通帳、専用の通帳又は出入り票等の帳票類等）に印字出力される。

【0065】なお、仮想口座での取引内容は、普通口座での取引内容を印字したページとは異なるページに仮想口座毎に印字される。ここで、所定期間における普通口座の通帳印字フォーマットを図13に示す。この図13に示す通帳印字フォーマットも、図21の従来の通帳印字フォーマットと同様に、入金取引の場合は、取引日時

が「年月日」欄に、入金金額が「お預り金額」欄に、入金後の残高が「差引残高」欄にそれぞれ印字される他、例えば「キューヨ」のような取引内容が「お支払金額」欄に印字される。

【0066】また、支払取引の場合は、取引日時が「年月日」欄に、支払金額が「お支払金額」欄に、支払後の残高が「差引残高」欄にそれぞれ印字される他、例えば「デンキ」のような取引内容が「お預り金額」欄に印字される。このような普通口座での取引内容を、前述のように仮想口座毎に分類して通帳28に印字したときの仮想口座の通帳印字フォーマットを図14～図20に示す。

【0067】この図14～図20に示す通帳印字フォーマットも、図21の従来の通帳印字フォーマットと同様に、入金取引の場合は、取引日時が「年月日」欄に、入金金額が「お預り金額」欄に、入金後の残高が「差引残高」欄にそれぞれ印字される他、例えば「キューヨ」のような取引内容が「お支払金額」欄に印字される。また、支払取引の場合は、取引日時が「年月日」欄に、支払金額が「お支払金額」欄に、支払後の残高が「差引残高」欄にそれぞれ印字される他、例えば「デンキ」のような取引内容が「お預り金額」欄に印字される。

【0068】このように、仮想口座を用いて口座を管理することにより、所定期間内の取引内容を仮想口座毎に分類することができ、これにより、容易に各々の取引内容を把握できるようになる。また、支出項目毎に仮想口座を設け、仮想口座毎に予算として所定額を振り分けることにより、各支出項目に対する予算枠を設け、その予算の範囲内において計画的に支出を行なうような家計の管理に適用することができる。

【0069】さらに、このようにして顧客の利便を図ることにより、金融機関において顧客獲得の拡大を図ることができる。

(b3) 仮想口座間の残高移動手順

本実施形態にかかる口座管理方法においては、CPU14における仮想処理部32の仮想口座残高移動機能部35の機能を用いて、複数の仮想口座の相互間で残高移動を行なうことにより、口座全体の収支のバランスをとることができる。

【0070】ここでは、便利口座1～6での余剰金を、

貯蓄用（へそくり用）の便利口座7へ任意に移動する場合について説明する。この仮想口座間の残高移動にかかる動作を、図6のフローチャート（ステップB1～B4、B9～B13）に従って説明する。仮想口座間の残高移動を行なう際には、例えば図10の（1）に示すような初期画面上の取引キーとして「サービス」を押下すると（ステップB1）、例えば図10の（2）に示すような便利口座サービスの説明画面及び図10の（3）に示すような通帳挿入案内画面が表示される（ステップB2）。

【0071】ここで、通帳28をATM11に挿入してから（ステップB3）、利用者は、新規手続きを行なうか否かを判断し（ステップB4）、ここでは新規手続きを行わずに仮想口座間の残高移動を行なうためステップB4においてNoのルートへ進み、取引キーとして「移動手続」を押下する（ステップB10）。その後は、後述するような所定項目の入力を行ない（ステップB11）、各仮想口座に対する処理が終了する毎に通帳28のMS部（磁気ストライプ部）28Aが更新される（ステップB12）、所定項目の入力が終了したか否かを判断し（ステップB13）、終了していない場合はステップB11の所定項目の入力を引き続いて行ない、終了した場合は通帳28が放出される（ステップB9）。

【0072】仮想口座間の残高移動の実際の操作手順（ステップB11による所定項目の入力手順）を、図10、図11を参照しながら更に説明する。ここで、図10、図11に示す表示画面には、「支払」、「預入」等のタッチキーが設けられており、これらのキーのうちのいずれかを押下することにより、所望の取引を行なうようになっている。なお、タッチキーの内の「取消」を押下すると、初期画面に戻るものとする。

【0073】また、カナ及び数字の入力は、図10、図11では図示しない表示画面に設けられたタッチキーで構成されるカナキー及びテンキーを用いて行なわれるか、別に設けられたキーボードのカナキー及びテンキーを用いて行なわれるようになっている。自動取引装置11の表示部20には、図10の（1）に示すような初期画面が表示されており、仮想口座間の残高移動は、この初期画面に示す「支払」、「預入」、「残照」、「記帳」及び「サービス」の内の「サービス」において行なう。

【0074】ここで、タッチキーの「サービス」を押下すると、表示画面は図10の（2）に示すように、このサービスが便利口座サービスであることを確認するためのものとなり、「確認」を押下すると、表示画面は図10の（3）に示すような通帳挿入案内画面となるため、通帳を挿入するとともに、残高移動を行なう「移動手続」を押下する。

【0075】「移動手続」を押下すると、表示画面は図10の（4）に示すような便利口座の移動手続画面とな

る。この図10の(4)では、網かけ又は反転文字等の強調表示を矢印キー(「↓」, 「↑」, 「→」,

「←」)を押下して各口座間で移動させることにより、残高の移動元の便利口座を選択し(ここでは便利口座3の残高を移動するため強調表示を「口座3」へ移動させる)、選択が終了した後「確認」を押下する。

【0076】これにより、表示画面は図10の(5)に示すような選択された口座における残高を確認する画面となる。この図10の(5)でも、強調表示を矢印キー(「↓」, 「↑」, 「→」, 「←」)を押下して各口座間で移動させることにより、残高の移動先の便利口座を選択するとともに(ここでは便利口座7へ残高を移動するため強調表示を「口座7」へ移動させる)、移動金額として「18755」を入力した後「確認」を押下する。

【0077】このように残高の移動元の便利口座及び移動先の便利口座の選択、移動金額の入力が終了すると、表示画面は図10の(6)に示すようになり、このときの手続きとして便利口座間の残高移動が行なわれる。手続きが終了すると表示画面は図11の(7)に示すように、便利口座間で残高移動が行なわれたことを確認するものとなり、「確認」を押下すると、表示画面は図11の(8)に示すような便利口座の移動手続画面に戻る。

【0078】他の便利口座間において残高の移動を行なう場合も、上述の場合と同様の手順で残高の移動が行なわれ、手続きが終了したときは「終了」を押下すると表示画面は図11の(9)に示すようになり、通帳28を抜き取ると表示画面は図11の(10)に示すような初期画面に戻る。このように自動取引装置11の表示画面に従って入力を行なうことにより、簡単に仮想口座間の残高移動を行なうことができる。

【0079】また、支出項目毎に仮想口座を設け、仮想口座毎に予算として所定額を振り分けることにより、各支出項目に対する予算枠を設け、その予算の範囲内において計画的に支出を行なうような家計の管理を行なう際に、ある仮想口座において余剰金が生じた場合はこの余剰金を貯蓄用の仮想口座に移動させたり、ある仮想口座における予算が不足した場合には他の仮想口座における余剰金を移動させることにより、口座全体の収支のバランスをとることができる。

【0080】さらに、このようにして顧客の利便を図ることにより、金融機関において顧客獲得の拡大を図ることができる。なお、上述した実施形態では、仮想口座情報を通帳28のMS部28Aに記録する場合について説明したが、本発明は、これに限定されるものではなく、ある一定の情報量を記録することのできるものであれば、他のものでもよく、例えば、カード27の磁気ストライプ部に記録してもよいし、カードとしてICカードが用いられる場合にはICカード内のICメモリに記録するようにしてもよく、いずれの場合も、上述した実施

形態と同様の作用効果を得ることができる。

【0081】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明の口座管理方法によれば、ある一つの口座内で取引内容を仮想口座毎に分類して管理することができるので、複数の口座を開設することなく仮想口座(支払項目)毎の取引内容を容易に把握できるとともに、仮想口座毎に予算として所定額を振り分けることにより、各支出項目に対する予算枠を設け、その予算の範囲内において計画的に支出を行なうような家計の管理に適用することができる。これにより、金融機関利用者にとっての利便性が向上し、ひいては金融機関において顧客獲得の拡大にもつながる(請求項1)。

【0082】このとき、複数の仮想口座に関する仮想口座情報を口座のための所定の記録媒体に記録して複数の仮想口座を開設することにより、ホスト等の上位装置に全く負荷をかけることなく、本発明の口座管理方法を実現することができる(請求項2)。また、所定の記録媒体を用いて口座に対する取引を行なう場合に、所定の記録媒体から読み出した仮想口座情報に基づいて一連の取引結果を仮想口座毎に分類し、その分類の結果得られた各仮想口座に対する取引結果を、口座のための所定の印刷媒体に対して仮想口座毎に印刷出力することにより、取引内容を仮想口座毎に分類することができるので、利用者はその所定の印刷媒体を見るだけで容易に各々の取引内容を把握することができる(請求項3)。

【0083】さらに、一連の取引結果を仮想口座毎に分類した結果得られた各仮想口座の残高情報を、所定の記録媒体に記録して保存することにより、ホスト等の上位装置に全く負荷をかけることなく、各仮想口座の残高を管理することができる(請求項4)。また、所定の記録媒体から読み出した各仮想口座の残高情報に基づいて、複数の仮想口座の相互間で残高移動を行なうことにより、ある仮想口座において余剰金が生じた場合はこの余剰金を貯蓄用の仮想口座に移動させたり、ある仮想口座における予算が不足した場合には他の仮想口座における余剰金を移動させることができ、口座全体の収支のバランスをとることができる効果もある(請求項5)。

【0084】そして、所定の印刷媒体を口座のための取引通帳とし、所定の記録媒体をその取引通帳に付された磁気ストライプ部とすることにより、従来から金融機関において用いられていた印刷媒体及び記録媒体をそのまま用いながら、且つ、自動取引装置等のハードウェアを全く変更することなくソフトウェア上の変更を行なうだけで、本発明の口座管理方法を実現することができる(請求項6)。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の原理説明図である。

【図2】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置のCPUの機能ブロック図であ

る。

【図 3】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の構成を示すブロック図である。

【図 4】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 5】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 6】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座を開設するときの
10 手順および仮想口座間で残高を移動するときの手順を説明するためのフローチャートである。

【図 7】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座を開設するときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図である。

【図 8】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座を開設するときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図
20 である。

【図 9】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座を開設するときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図である。

【図 10】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座間での残高移動を行なうときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図である。

【図 11】本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座間での残高移動を行なうときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図である。
30

【図 12】仮想口座記録フォーマットの一例を示す図である。

【図 13】普通口座の通帳印字フォーマットを示す図である。

【図 14】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図である。

【図 15】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図である。
40

【図 16】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図で*

*ある。

【図 17】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図である。

【図 18】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図である。

【図 19】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図である。

【図 20】仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図である。

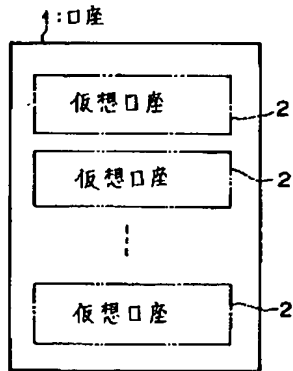
【図 21】従来の通帳印字フォーマットを示す図である。

【符号の説明】

- 1 口座
- 2 仮想口座
- 10 ホスト
- 11 自動取引装置 (ATM)
- 12 制御部
- 13 インタフェース部
- 14 CPU
- 15 表示制御部
- 16 I/O部
- 17 メモリ
- 18 印刷出力部
- 19 バス
- 20 表示部
- 21 操作パネル
- 22 カードリーダー/ライタ
- 23 MS部リーダー/ライタ
- 24 通帳印字部
- 25 取引明細書印字部
- 26 現金取扱装置
- 27 カード
- 28 通帳 (取引通帳, 印刷媒体)
- 28A 磁気ストライプ部 (MS部, 記録媒体)
- 29 明細書
- 30 現金
- 31 取引処理部
- 32 仮想処理部
- 33 仮想口座開設機能部
- 34 仮想口座取引結果分類機能部
- 35 仮想口座残高移動機能部

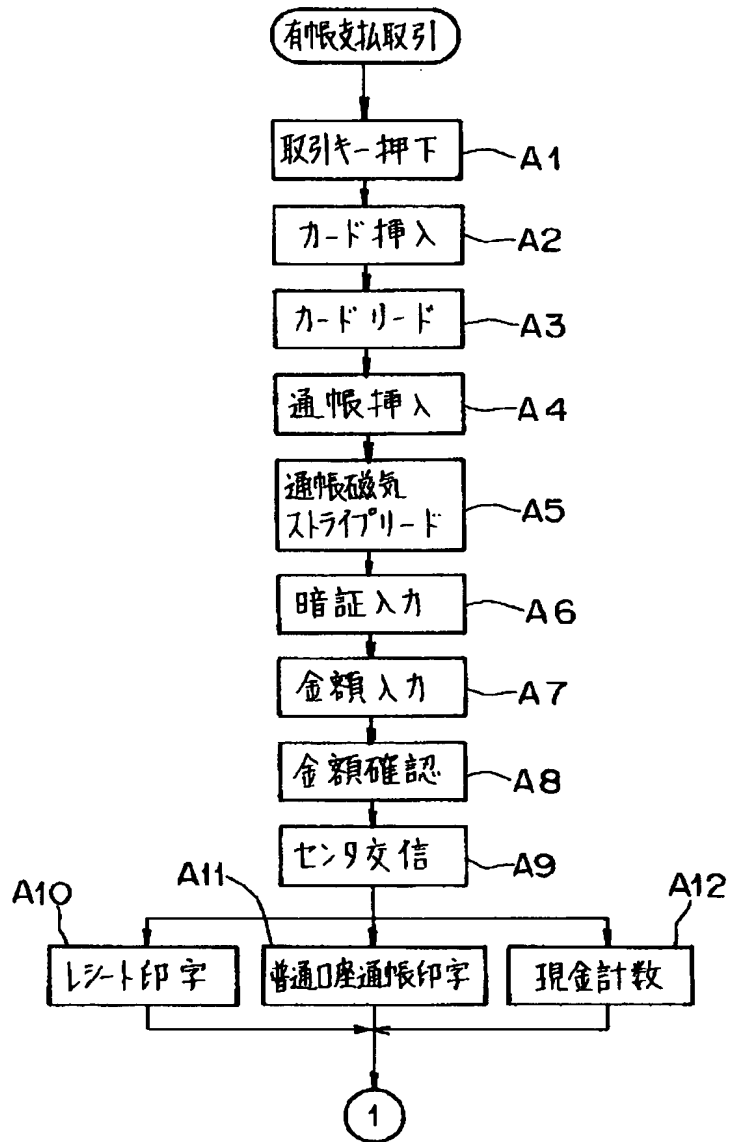
【図1】

本発明の原理説明図



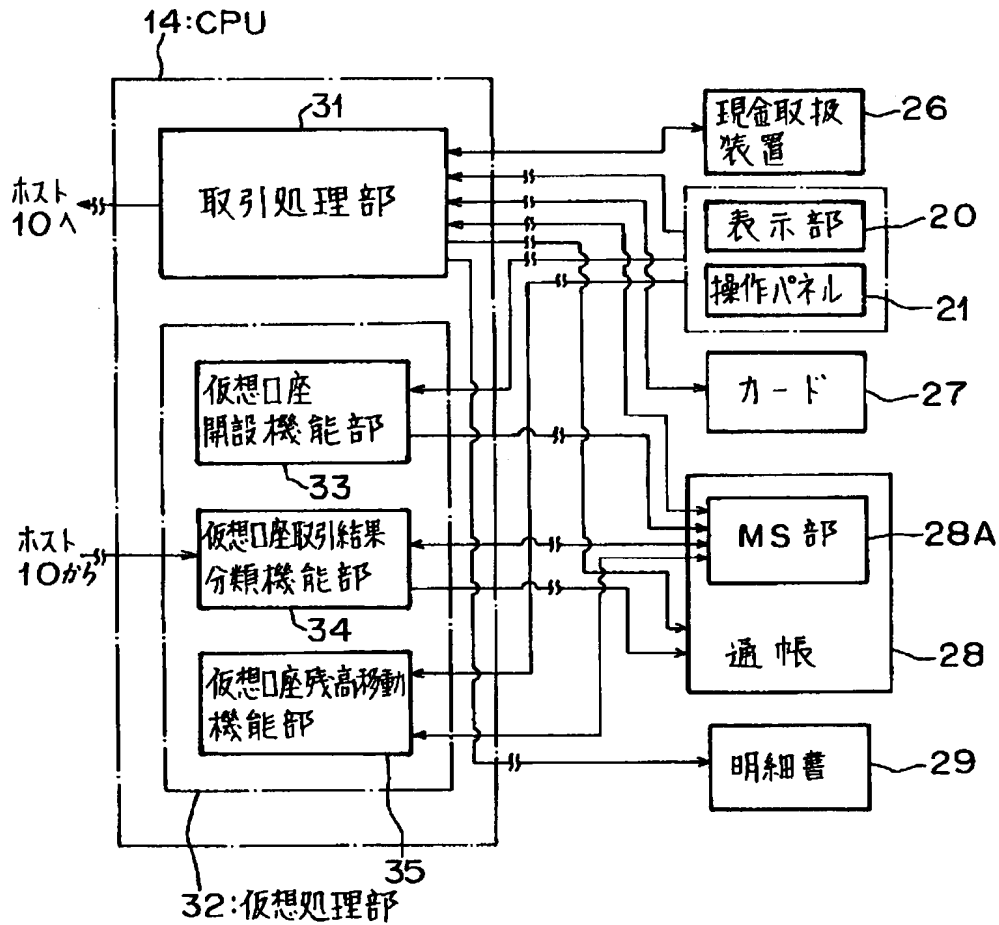
【図4】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の動作を説明するためのフローチャート



【図2】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置のCPUの機能ブロック図



【図15】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座2 ポツス					
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高	備考
7-6-19	ポツス		\$750,914	\$750,914	
7-6-20		\$198,000	〇〇万円	\$552,914	
7-7-25		\$20,900	〇〇万円	\$532,014	

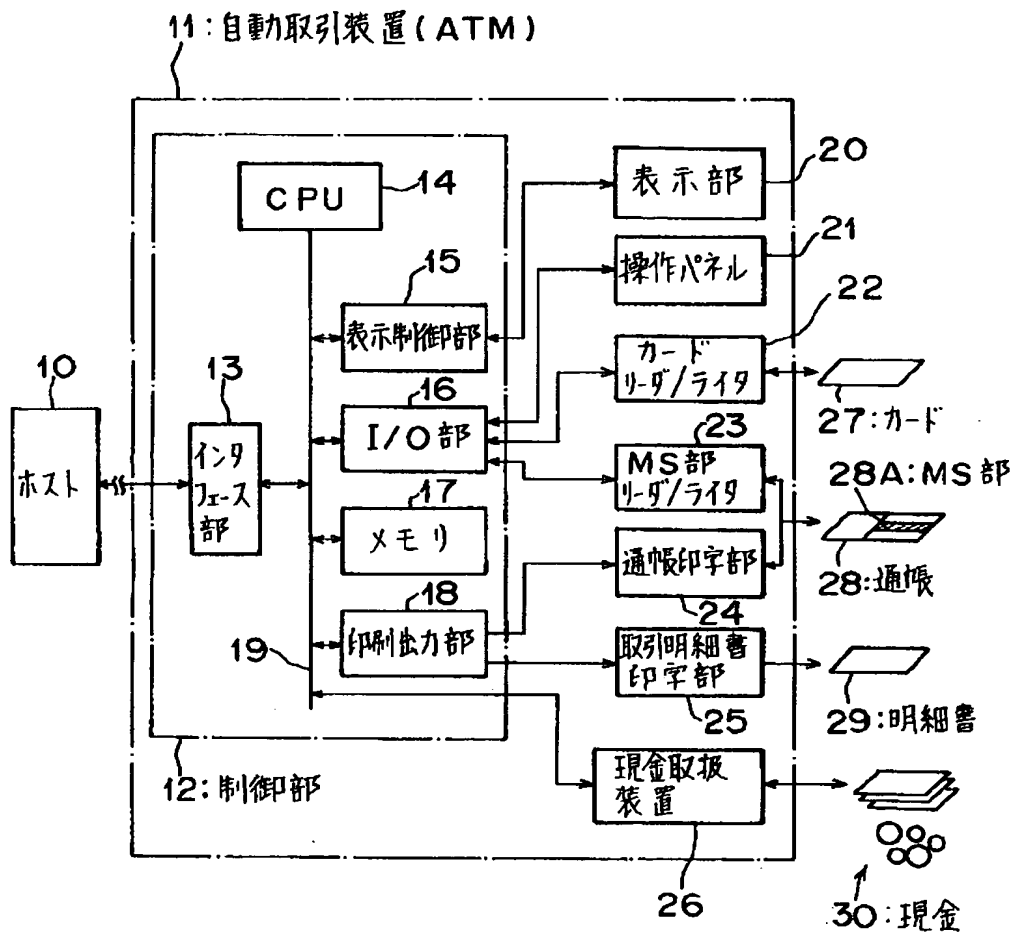
【図16】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座3 デンキ					
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高	備考
7-6-26	コウザ		\$20,000	\$20,000	
7-6-28		\$11,621	デンキ	\$8,379	
7-6-28	コウザ		\$20,000	\$28,379	
7-6-28		\$9,624	デンキ	\$18,755	
7-7-12		\$18,755	コウザ	\$0	

【図3】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の構成を示すブロック図



【図17】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座4 ガス				
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高
7-5-26	コウザ1		\$20,000	\$20,000
7-5-28		\$8,975	ガス	\$11,025
7-6-26	コウザ1		\$20,000	\$31,025
7-6-28		\$12,345	ガス	\$18,680
7-7-12		\$18,680	コウザ7	\$0

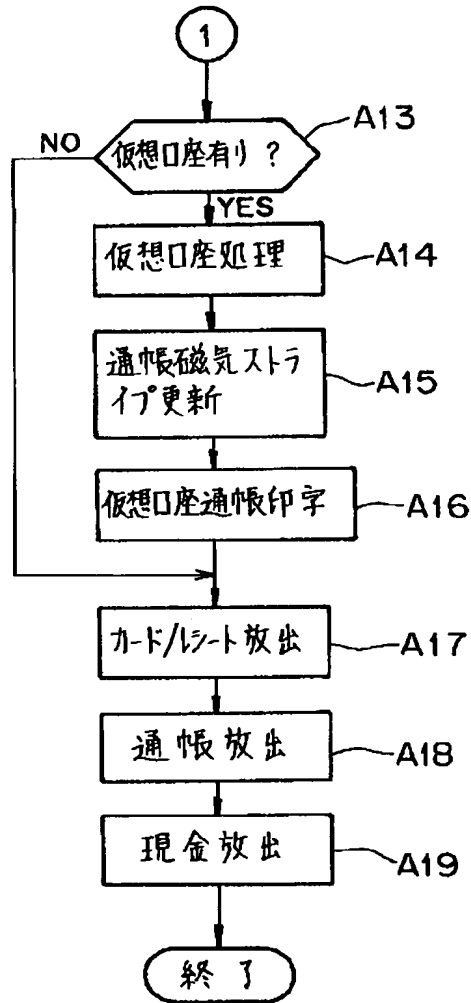
【図18】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座5 スイッチ				
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高
7-5-26	コウザ1		\$5,000	\$5,000
7-6-5		\$3,718	スイッチ	\$1,282
7-6-26	コウザ1		\$5,000	\$6,282
7-7-5		\$3,503	スイッチ	\$2,779
7-7-12		\$2,779	コウザ7	\$0

【図5】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置の動作を説明するためのフローチャート



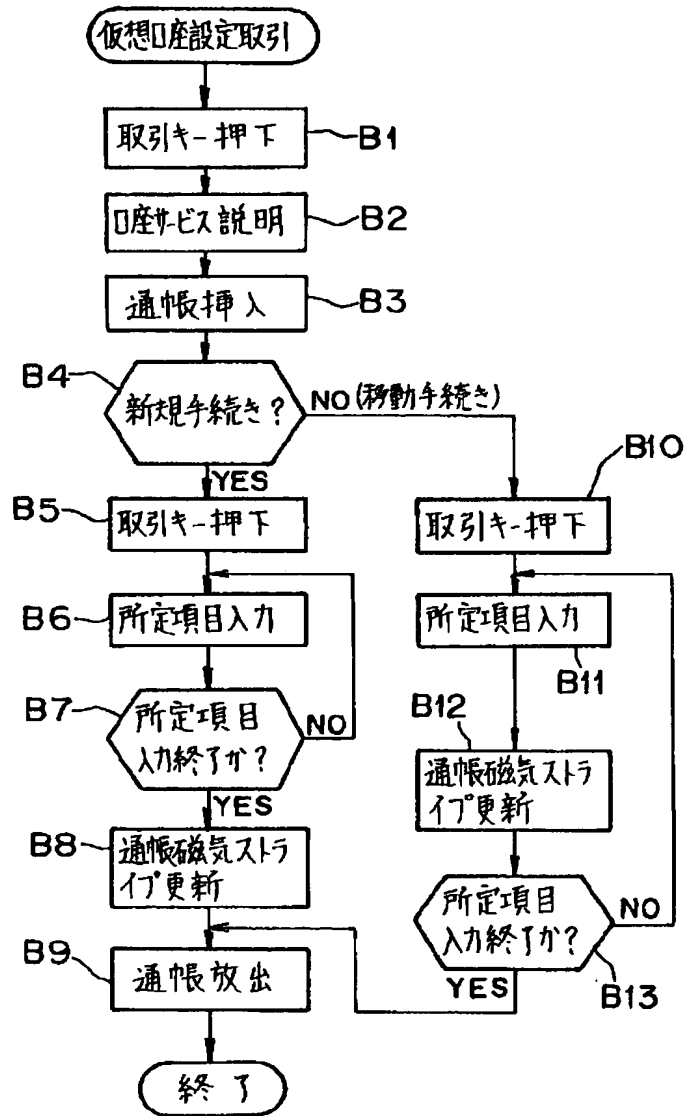
【図20】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座アソシ					
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高	備考
7-7-12	3773		\$18,756	\$18,756	
7-7-12	3774		\$18,680	\$37,436	
7-7-12	3775		\$2,778	\$40,214	
7-7-12	3776		\$1,000	\$41,214	

【図6】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座を開設するときの手順および仮想口座間で残高を移動するときの手順を説明するためのフローチャート



【図7】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座を開設するときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図

(1)

いらっしゃいませ
ご希望のお取引のボタンを
押して下さい

支払 預入 残照 記帳 サービス

↓ サービス 押下

(2)

便利口座サービス
便利口座サービスでは
お客様の用途に合わせた
残高管理ができます
詳しくは窓口まで
お問い合わせ下さい

確認 取消

↓ 確認 押下

(3)

便利口座お取引選択
通帳をお入れ下さい
ご希望のお取引のボタンを
押して下さい

新規手続 移動手続 取消

通帳挿入

↓ 新規手続 押下

(4) A

(4) (3)より

便利口座の新規お手続き

口座1 _____	口座6 _____
口座2 _____	口座7 _____
口座3 _____	口座8 _____
口座4 _____	口座9 _____
口座5 _____	口座10 _____

確認 ↓ ↑ → ← 終了

矢印キーにより設定する口座
(縦横/反転文字等で表示)を選択

↓ 確認 押下

(5)

口座名を入力して下さい

口座1 _____

確認 訂正 → ← 取消

口座1 キュウリョウ

↓ 確認 押下

(6)

口座1 キュウリョウ

お預入れの項目を入力して下さい

1 _____
2 _____
3 _____
4 _____
5 _____

確認 訂正 ↓ ↑ → ← 取消

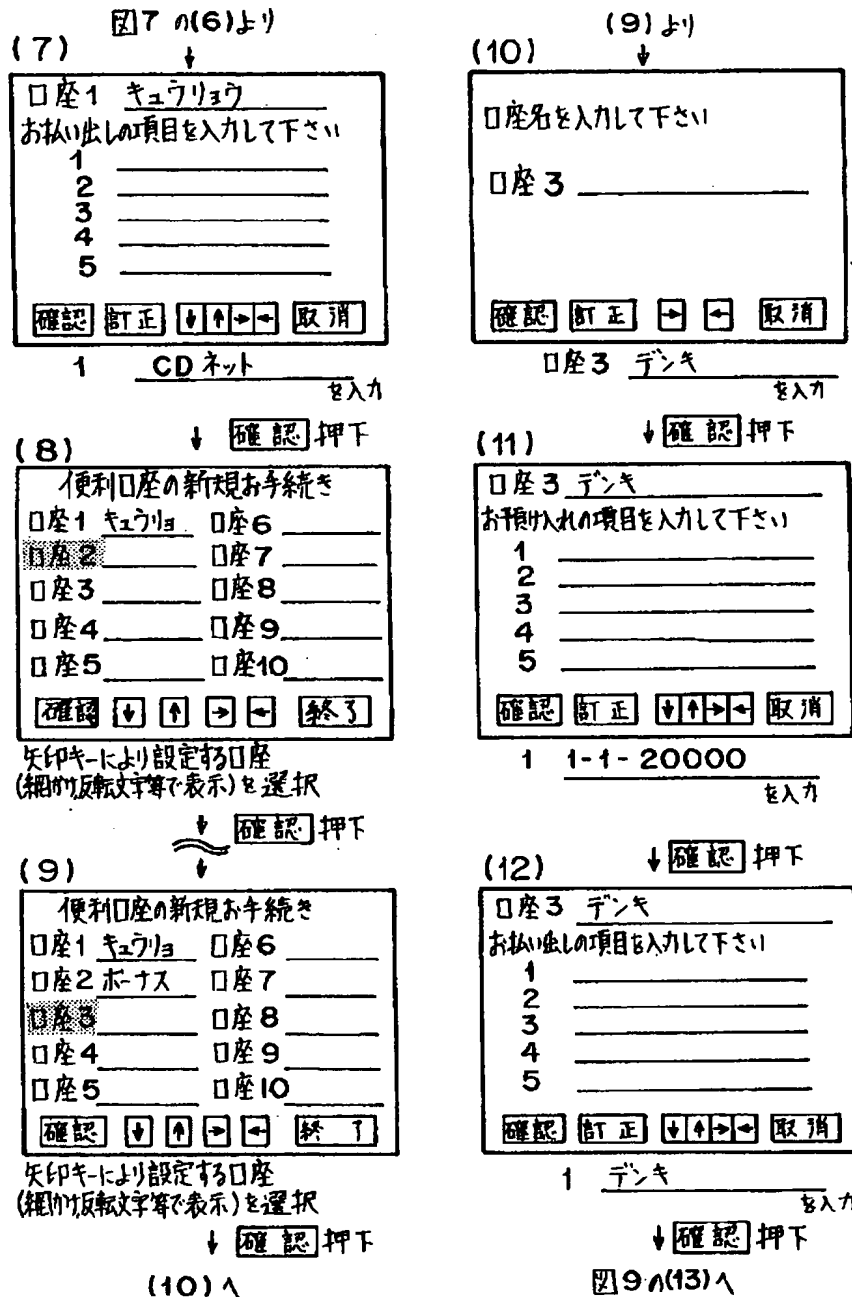
1 キュウヨ

↓ 確認 押下

図8の(7)A

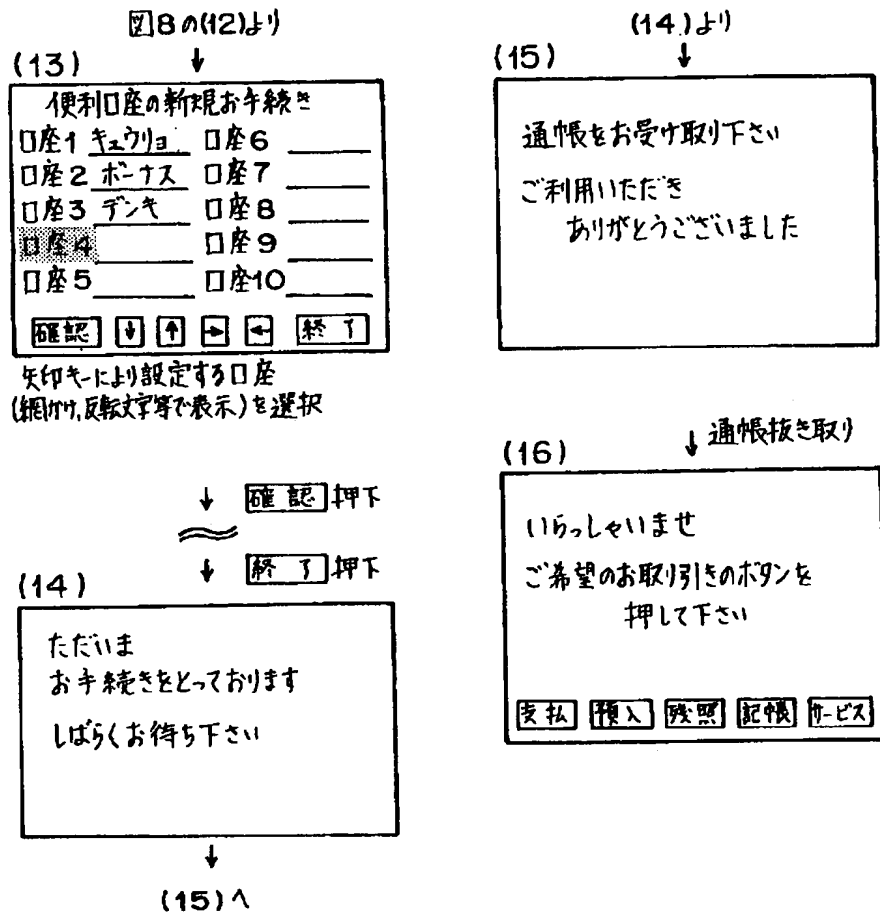
【図8】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において、仮想口座を開設するときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図



【図9】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において
仮想口座を開設するときの手順を説明する表示部での表示状態の遷移を示す図



【図10】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において、仮想口座間での残高移動を行なうときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図

(1)

いらっしゃいませ
ご希望のお取引のボタンを
押して下さい

支払 預入 残照 記帳 サービス

(2)

↓ サービス 押下

便利口座サービス
便利口座サービスでは
お客様の用途に合わせた
残高管理ができます
詳しくは窓口まで
お問い合わせ下さい

確認 取消

(3)

↓ 確認 押下

便利口座お取引選択
通帳をお入れ下さい
ご希望のお取引のボタンを
押して下さい

新通帳 移動手続 取消

通帳挿入

↓ 移動手続 押下

(4)へ

(4)

(3)より



便利口座の移動お手続き

口座1 キュウロ	口座6 NHK
口座2 ボーナス	口座7 ヘソクリ
口座3 デンキ	口座8
口座4 ガス	口座9
口座5 スイッチ	口座10

確認 ↓ ↑ → ← 終了

矢印キーにより移動する口座
(細字、反転文字等で表示)を選択

(5)

↓ 確認 押下

口座3 デンキ
残高 ￥18,755

移動先
口座1 キュウロ 口座5 スイッチ
口座2 ボーナス 口座6 NHK
口座4 ガス 口座7 ヘソクリ

移動金額

確認 訂正 ↓ ↑ → ← 取消

移動先口座 (細字、反転文字等で表示)
を選択

移動金額 18 755
を入力

(6)

↓ 確認 押下

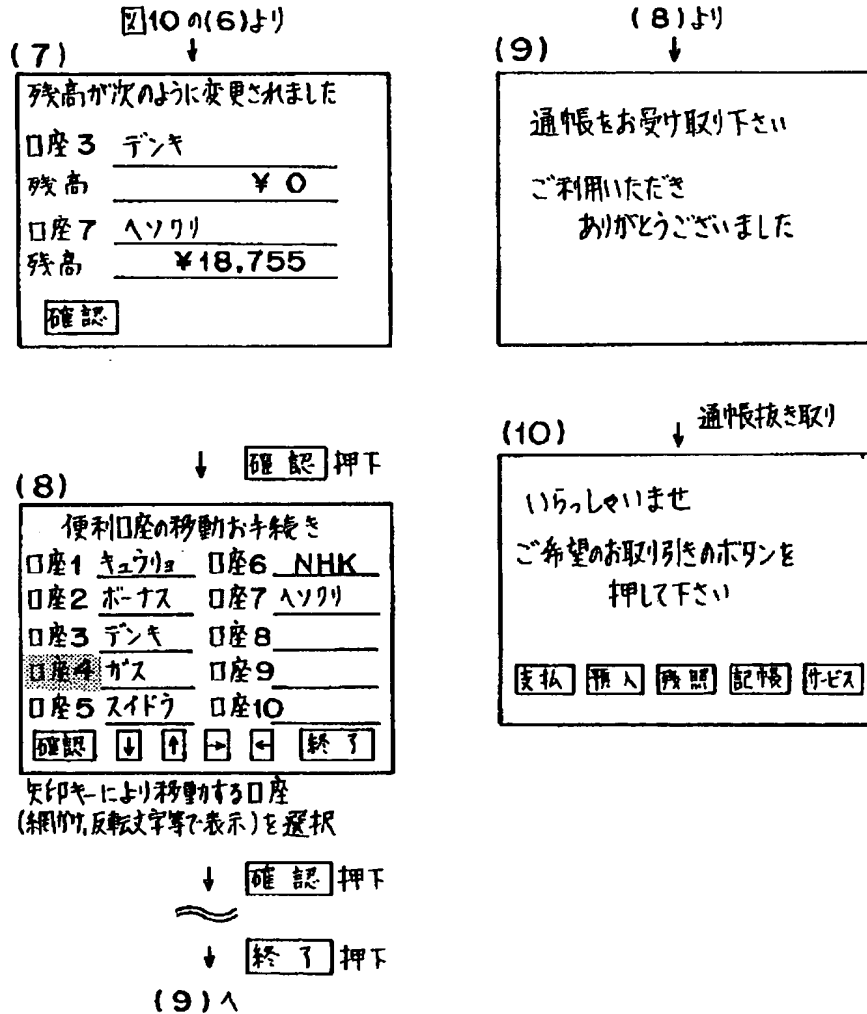
ただいま
お手続きをとっております
しばらくお待ち下さい



図11の(7)へ

【図11】

本発明の一実施形態にかかる口座管理方法が適用される自動取引装置において仮想口座間での残高移動を行なうときの手順を説明すべく表示部での表示状態の遷移を示す図



【図12】

仮想口座記録フォーマットの一例を示す図

—スペース(セパレータとして使用)

1	キュウリョウ	xxxxxx
	仮想口座名称	仮想口座残高
	仮想口座No.	
	キュウヨ	CD ネット
	預け入れ項目 (項目が複数存在する場合、 セパレータを検知するまで 10文字毎に区切る。)	引き落とし項目 (項目が複数存在する場合、 セパレータを検知するまで 10文字毎に区切る。)
2	ボーナス	xxxxxx
	ボーナス	〇〇クレジット
3	デンキ	xxxxxx
	1-1-20000	デンキ
4	ガス	xxxxxx
	1-1-20000	ガス
5	スイドウ	xxxxxx
	1-1-5000	スイドウ
6	NHK	xxxxxx
	1-1-2000	NHK
	仮想口座1に預け入れ項目1が誕生したら、 ¥2,000を移動がなとも表わす。	
7	ハソワリ	xxxxxx
	預け入れ項目、引き落とし 項目の指定がない場合、 セパレータのみが存在する。	

【図13】

普通口座の通帳印字フォーマットを示す図

普通預金(借入明細)				
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高
7-5-26	キユーロ		\$318,321	\$368,321
7-5-28		\$11,621	デパート	\$356,700
7-5-28		\$8,975	ガス	\$347,725
7-5-28		\$200,000	CDネット	\$147,725
7-6-5		\$3,718	スイト	\$144,007
7-6-10		\$1,500	NHK	\$142,507
7-6-19	デパート		\$750,914	\$893,421
7-6-23		\$50,000	CDネット	\$843,421
7-6-25		\$198,000	○○クレジット	\$645,421
7-6-26	キユーロ		\$350,952	\$996,373
7-6-26		\$200,000	CDネット	\$796,373
7-6-28		\$9,624	デパート	\$786,749
7-6-28		\$12,345	ガス	\$774,404
7-7-5		\$3,503	スイト	\$770,901
7-7-10		\$1,500	NHK	\$769,401
7-7-12		\$100,000	CDネット	\$669,401
7-7-25		\$20,600	○○クレジット	\$648,801

【図19】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座6 NHK				
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高
7-5-26	コウザ		\$2,000	\$2,000
7-6-10		\$1,500	NHK	\$500
7-6-26	コウザ		\$2,000	\$2,500
7-7-10		\$1,500	NHK	\$1,000
7-7-12		\$1,000	コウザ	\$0

【図14】

仮想口座の通帳印字フォーマットを示す図

便利口座1 キユーロ				
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高
7-5-26	キユーロ		\$318,321	\$318,321
7-5-28		\$20,000	コウザ	\$298,321
7-5-28		\$20,000	コウザ	\$278,321
7-5-28		\$5,000	コウザ	\$273,321
7-5-28		\$2,000	コウザ	\$271,321
7-5-29		\$200,000	CDネット	\$71,321
7-5-29		\$50,000	CDネット	\$21,321
7-5-29	キユーロ		\$350,952	\$372,273
7-5-29		\$20,000	コウザ	\$352,273
7-5-29		\$20,000	コウザ	\$332,273
7-5-29		\$5,000	コウザ	\$327,273
7-5-29		\$2,000	コウザ	\$325,273
7-5-29		\$200,000	CDネット	\$125,273
7-7-12		\$100,000	CDネット	\$25,273

【図21】

従来の通帳印字フォーマットを示す図

普通預金(借入明細)				
年月日	記号	お支払金額	お預り金額	差引残高
7-5-26	キユーロ		\$318,321	\$368,321
7-5-28		\$11,621	デパート	\$356,700
7-5-28		\$8,975	ガス	\$347,725
7-5-28		\$200,000	CDネット	\$147,725
7-6-5		\$3,718	スイト	\$144,007
7-6-10		\$1,500	NHK	\$142,507
7-6-19	デパート		\$750,914	\$893,421
7-6-23		\$50,000	CDネット	\$843,421
7-6-25		\$198,000	○○クレジット	\$645,421